明治～昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方

2026.11 大阪大学総合図書館 学習・調査支援担当
（参考調査カウンター）

皆さんこんにちは。

E-learning教材「明治~昭和期の日本の雑誌・新聞記事の探し方」をご覧いただき、ありがとうございます。

大学院生・研究者の方にも、卒論を準備する3・4年生の方にも参考となる内容の教材です。

本講習会のポイント

◆ 発行時期
- **明治・大正・昭和期**

◆ 対象とする資料
- 日本の**一般誌**・**大衆誌**の記事　※学術雑誌論文は今回は対象外
- 日本の**新聞**の記事

これらの資料の**記事情報を探す方法**と
実際に入手する方法をご紹介します

この教材は、明治から昭和期に日本で発行された一般誌や大衆誌、新聞の記事を使って、当時の文化や社会を研究する方に役立つ内容を紹介します。
ここで言う「記事」には、雑誌や新聞に掲載された文芸作品なども含まれます。
今回は、記事情報の探し方と、資料を実際に入手する方法を見ていきます。ただし、学術雑誌に載った論文は対象外です。

ご存じの方も多いと思いますが、これらの記事情報はとても探しにくいものです。
検索ツールの特徴を理解して、うまく組み合わせて使うことが大切です。
どのツールを使うか、どう組み合わせるかは、研究テーマによっても変わります。
そこで今日は、探索方法の全体像と、押さえておきたいポイントを紹介していきます。

本講習会の構成

1. 雑誌の記事情報の探し方
2. 新聞の記事情報の探し方
3. 実際に記事を入手する



教材の構成です。
まず、記事情報の探し方を、雑誌記事、新聞記事の順に見ていきます。
続いて、見つけた記事をどのように入手するか、その方法をお話しします。

1. 雑誌記事情報の探し方

第1章では、雑誌記事情報の探し方についてお話しします。

雑誌記事情報を探すには複数のツールを使い分けよう

◆ 網羅的なデータベースは無い
- 条件に該当する記事を探している（＝特定の記事ではない）場合は、複数の探索ツールを併用し、他にも該当記事がないか確認してみる

◆ 紙の書誌索引や参考図書等にしか無い情報も多い
- データベースやWeb上では検索できないが、紙の資料に情報があるケースが多い
- 主要な書誌索引・参考図書を頭に入れておくと探索の幅が広がる

はじめに、記事情報を探すときは複数のツールを使い分けることをおすすめします。
残念ながら、これさえ検索すれば全ての記事情報を探せる、という網羅的なデータベースは存在しないことを念頭に、
ある条件に該当する記事をできるだけ多く探したいという場合、1つのデータベースだけ検索するのではなく、複数のツールを併用することをおすすめします。
また、紙の書誌索引や参考図書でしか探せない情報もまだまだ存在しています。
こういった紙の資料の存在を頭に入れておくと、探索の幅が広がります。

データベース活用のポイント1

◆ どのような雑誌のどのような年代が収録されているかを知る

- データベースのヘルプページや提供元Webサイトで**収録内容を確認**する
- 収録内容が明記されていない場合は**内容を探ってみる**
  - 雑誌名を指定して検索：自分がよく活用する雑誌名で検索してみる
  - 記事の出版年を指定して検索：自分が着目している年代の収録記事量を探る

◆ どのような検索機能があるか知る

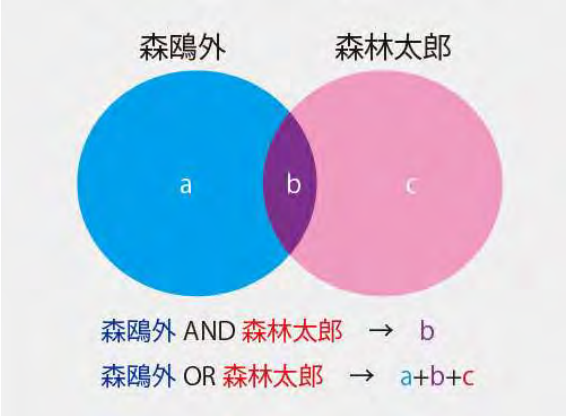
- 「詳細検索」機能など**高度な検索機能**があるかを確認する
- AND検索やOR検索など、キーワードの掛け合わせができるかを確認する

つぎに、すべてのデータベースに共通する、活用のポイントを2つあげました。

1つめは、どのような雑誌の、どのあたりの年代が収録されているかを知ることです。
データベースのヘルプページや提供元のWebサイトなどで収録内容を確認できます。
詳しい収録内容が明記されていない場合には、よく活用する雑誌名で検索してみたり、
お探しの年代の情報がどのくらい収録されているかを確認してみます。

次に、どのような検索機能があるかを知ること。
多くのデータベースは高度な検索機能を備えています。
詳細検索画面を見たり、キーワードの掛け合わせができるかどうかを確認してから有効に活用しましょう。

データベース活用のポイント2



OR検索が有効な場面

ペンネームや本名など、ある人物が書いた もしくは ある人物についての記事を漏れなく検索したい

ex. 「森鴎外」と「森林太郎」

組織・事項の名称のさまざまな呼び方や、名称の変遷を含めて検索したい

ex. 「大阪大学」と「大阪帝国大学」

つぎに、AND検索とOR検索です。

AND検索は通常皆さんが検索するときに使う方法かと思います。
阪大OPACやGoogleで検索するとき、キーワードとキーワードの間にスペースを入れて検索するとAND検索になりますが、「入力したキーワードをすべて含むものを検索する」という方法です。

一方、OR検索は「入力したキーワードの一つでも含むものを探す」という方法で、網羅的な検索に向いている方法です。
たとえば、本名以外にペンネームを持つ人物についての記事を漏れなく検索したい、といったケースで有効です。
スライドでは、森鴎外や大阪大学の例を挙げていますが、このほかにも、同義語、類義語などを含めた検索などに向いています。

CiNii Research について

◆ 学術書や雑誌論文を探すことに主眼をおいたデータベース

- 学術雑誌論文に焦点を当て、さまざまな情報源からデータを収録
- 明治～昭和期の日本の一般誌・大衆誌などの雑誌記事を探すにはあまり有用ではない

ある事柄・人物についての研究論文/ ある人物の執筆した研究論文
➡ CiNii Researchなどの論文データベース

ある事柄・人物についての一般雑誌記事、ある人物の執筆した一般雑誌記事
➡ このあと紹介する雑誌記事データベースや書誌索引など

という風に、検索ツールを使い分ける必要があります。



8

ここで、CiNii Researchについても簡単に触れておきます。

日本語論文を検索するときの代表的なデータベースです。みなさんの中にも、利用された方は多いかと思います。
CiNii Researchは、学術書や学術雑誌論文を検索することに主眼を置いたデータベースです。そのため、一般誌や大衆誌の記事情報の収録は少なく、今回の講習会が対象とするような資料の検索には有用ではありません。

学術雑誌論文を検索したい場合は、CiNii Researchなどの論文データベースを活用し、一般雑誌記事を検索したい場合は、このあと紹介するデータベースや紙の資料を活用する、というように検索ツールを使い分ける必要があることを覚えておいてください。

①ざっさくプラス（雑誌記事索引集成データベース）

◆ 大阪大学で契約している有料データベース（**同時アクセス５**）

【主な収録内容】

- 過去に出版された目録・総目次等から独自に索引した目次データ
- 国立国会図書館デジタルコレクションのうち、戦前の雑誌の目次データ

※ざっさくプラス独自に目次を拡充

全国誌だけでなく地方誌、戦前植民地期の朝鮮語雑誌も収録



約3,000万件の記事情報

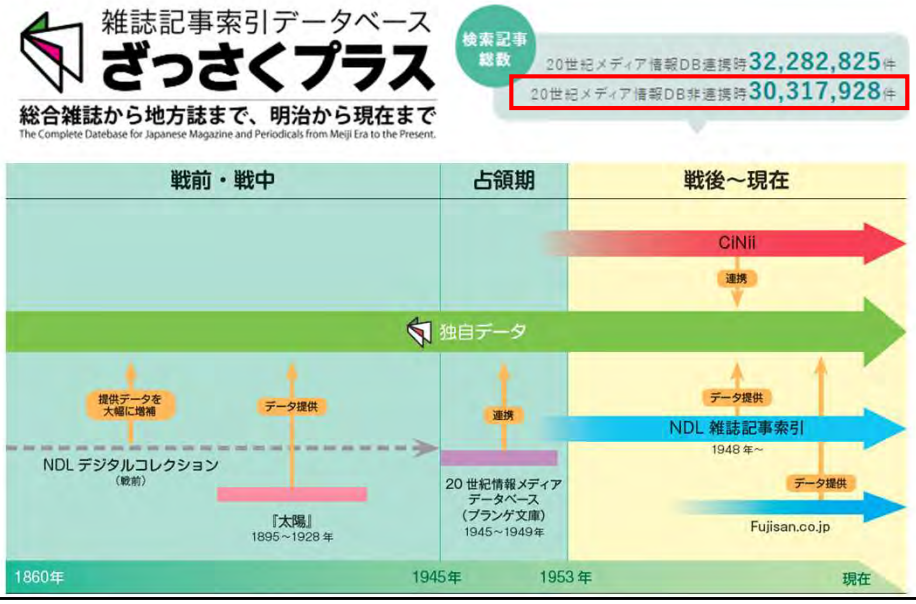
9

ではここから、具体的なデータベースについて詳しく紹介していきます。

1つ目に紹介するデータベースは「ざっさくプラス」です。
「ざっさくプラス」は、明治初期から現在までに日本国内で刊行された雑誌の記事を調べるためのデータベースです。
『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』という120巻からなる索引が1990年代に刊行されており、それをデータベース化したもので、現在も収録内容が増え続けているのが特徴です。
検索できるのは主に目次データとなりますが、記事本文が入手できる場合もあります。

ざっさくプラスは大阪大学で契約しているデータベースで、阪大所属の皆さんが利用できます。
同時アクセスは5、つまり阪大の中で同時に使えるのは5人まで、という制限があります。
アクセスできなかったら、時間をおいて再度アクセスしてみてください。

ざっさくプラスを構成するデータ群



約3,000万件の記事情報

こちらは、ざっさくプラスを、他の類似するデータベース比較した表です。
真ん中の黄緑色独自データという矢印が「ざっさくぷらす」を表しています。

矢印が1860年から現在まで切れ目なく続いていることが見て取れますね。
ざっさくプラスでは、明治初期から現代まで約160年刊の間に書かれた雑誌記事の情報が網羅的に検索できます。

2026年現在、収録データ件数は3,000万件を超えています。

①ざっさくプラス：アクセス方法

キャンパス内からのアクセス

図書館Webサイトの「データベース」タブ
→「すべてのタイトルを表示」
→「**ざっさくプラス**」をクリック

キャンパス外からのアクセス

図書館Webサイト
→「キャンパス外から電子リソースを使う」
→「**ざっさくプラス**」をクリック
→阪大個人IDとパスワードでログイン



ざっさくプラスへのアクセス方法をご紹介します。

大阪大学のキャンパス外からアクセスする際には、
1. 図書館のWebサイト、トップページにある（クリック）「キャンパス外から電子リソースを使う」をクリック
2. するとキャンパス外から使えるデータベースなどの一覧が表示されます。「ざっさくプラス」を探してクリック
3. 大阪大学個人IDとパスワードでログインを行う　　という手順です。

キャンパス内とキャンパス外でアクセス方法が違うことにご注意ください。

①ざっさくプラス：簡易検索

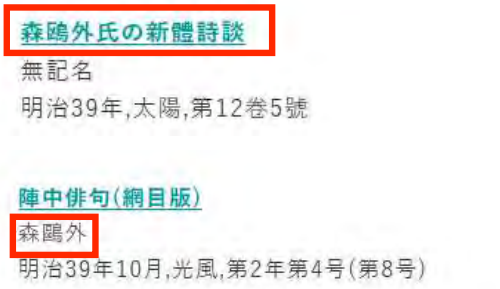
◆ 簡易検索

- 論題名と著者名を対象にキーワード検索

トップページ



検索結果一覧



12

こちらが「ざっさくプラス」のトップページです。
画面の上のタブで「簡易検索」「詳細検索」「図版検索」の3つの検索方法の切り替えができます。

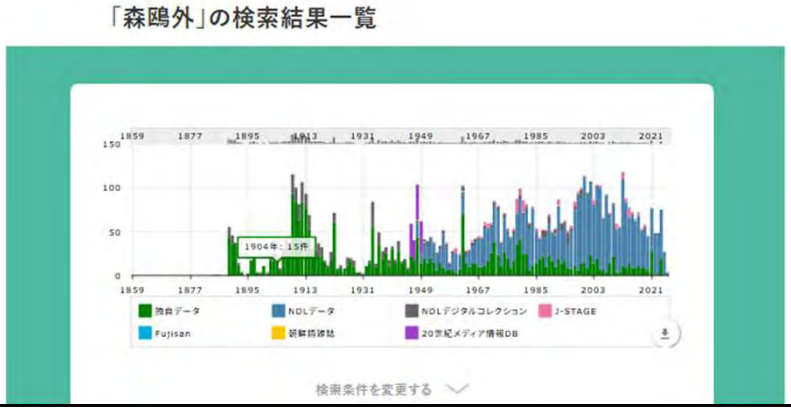
ここでは、「簡易検索」について解説していきます。
簡易検索では、記事のタイトルと著者名を対象にして検索できます。

今回は「森鷗外」というキーワードを入力して「検索」をクリックします。

①ざっさくプラス：検索結果画面の見方

検索結果一覧上部のグラフ

- ざっさくプラスに収録された出版年ごとの収録記事の件数が一目で分かる
- 該当年をクリックすると、検索結果一覧のうち、その年へ飛ぶことができる



13

検索すると、このようなグラフが表示されて、グラフの下には記事情報が出版年の古い順に並びます。
このグラフは、ざっさくプラスに収録された、出版年ごとの収録記事の件数を表示したものです。
グラフをクリックすると、検索結果一覧のうち、その年代のところまで飛ぶことができて便利です。
論題名をクリックすると詳細情報が表示されます。その記事が、どの雑誌の何巻何号に掲載されているかが分かります。

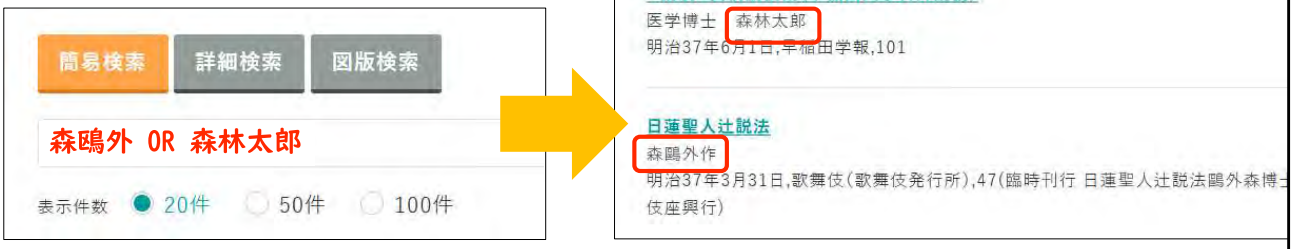
簡易検索モードでは、入力したキーワードが、記事のタイトルまたは著者名に含まれているものがヒットします。
ざっさくプラスは主に目次情報を収録しているデータベースなので、記事の本文を検索できる全文データベースではないことに注意してください。

①ざっさくプラス：AND検索とOR検索

ペンネームや外国の地名・人名表記などを含めた同義語検索機能が一部あるが、何が同義語の対象になっているかは公開されていない

➡ 漏れのない検索をしたいときは**OR検索**がおすすめ

OR検索「キーワード△OR△キーワード」　※ △は半角スペースを表す



検索結果を見て、気づかれた方もいらっしゃるかもしれませんが、
「森鴎外」だけでなく、本名の「森林太郎」名義で発表されたものもヒットしています。
これはなぜかというと、「ざっさくプラス」には同義語検索機能があり、「森鴎外」で検索したときに「森林太郎」も自動で検索できるようになっているからです。
ただ、何がどのように同義語検索できるのか、という情報は公開されていないため、より正確な検索を行いたいときは、ご自分でキーワードを検討してOR検索するほうがおすすめです。

トップページに戻って、OR検索とAND検索の方法をご紹介します。
まずAND検索は、二つのキーワードの間に半角スペースを入れるだけです。
一方のOR検索は、二つのキーワードの間に、半角スペース、大文字の「OR」、半角スペース、という形で入力します。
森鴎外と、本名の森林太郎をOR検索してみると、森鴎外名義のものと、森林太郎名義のものを同時に検索することができます。

①ざっさくプラスの留意点：重複データ

さまざまな情報源からデータを採録しているため、**同じ記事の情報が重複している場合がある**

➡ 詳細情報などから、同じ記事かどうかを見極める



15

ざっさくプラスの検索結果を見ていく際の留意点として、重複データの存在があります。
さまざまな情報源から記事の情報を集めているため、それらの情報が統合されず重複して表示されていることがあります。
　たとえばこの「日蓮聖人辻説法」は、明治37年すなわち1904年発行の雑誌『歌舞伎』の3月発行号に掲載されているものですが、重複データと思われるものが3つヒットします。
こういうときは、論題名をクリックした先に表示される詳細情報もふまえて、同じ記事情報かどうか見極めるようにしましょう。

①ざっさくプラスの留意点：重複データ詳細

さまざまな情報源からデータを採録しているため、**同じ記事の情報が重複している場合がある** ➡ 詳細情報などをふまえ、同じ記事かどうかを見極める

10 CiNii Books



11 雄松堂書店から復刻



17 国立国会図書館



10はCiNii Booksのデータ
11は復刻版（雄松堂書店出版）
17は国立国会図書館のデータ

①ざっさくプラス：検索のコツ

◆ 検索方式
- 簡易検索：雑誌記事のキーワード検索が可能（検索対象は論題名と著者名のみ）
- 異体字（芸と藝 など）はまとめて検索可能
  ペンネームや外国の地名・人名などの表記については、独自に構築した類語辞書により、
  一部は自動的に対応。ただし、漏れなく検索したい場合には、別名などをOR検索すること

◆ 論理演算の入力方法（△は半角スペース）
- AND検索：検索窓に「キーワード△キーワード」と入力
- OR検索：検索窓に「キーワード△OR△キーワード」と入力

◆ 検索の注意点
- 目次にはヨミデータが入っていない：漢字も含めて表記が完全一致しないとヒットしない
- 重複データ：複数の情報源からデータを採録しているため、記事が重複することもある

ざっさくプラスの検索のコツをまとめました。

①ざっさくプラス：その他の検索

◆ 詳細検索の使い方
- 論題名や著者名、雑誌名などの**項目を指定して検索**
- 漏れなく検索したいときには少し不便

◆ 図版検索の使い方
- 「図版や写真がついている可能性がある」記事を検索
- 論題等に「図版」「写真」などのキーワードが入っているものを機械的に抽出
- 検索結果が多い固有名詞や一般名詞についての絵や写真を探す際に便利





ここで「詳細検索」と「図版検索」についてご紹介します。

「詳細検索」では、論題名・著者名・雑誌名・刊行年などの項目を指定して検索することができます。
ただし「簡易検索」のように、入力したキーワードについて、論題と著者名を一括で検索するという機能はないため、
たとえば、ある人物に関する記事をもれなく検索したい場合には、「詳細検索」ではなく「簡易検索」を使う方が便利です。

「図版検索」では、図版や写真が付いている可能性がある記事を検索できます。
ただし、ざっさくプラス側で、実際に図版や写真が掲載されているかどうかを確認しているわけではなく、論題などに「図版」や「写真」などのキーワードが入っているものを機械的に抽出しています。

①ざっさくプラス：詳細検索

インタビュー記事・座談会記事は、
論題に著者名、発言者名が入っていることがある

➡ 簡易検索で検索する方が漏れがない


詳細情報

論　題	夏目漱石氏文学談
著　者	一記者
掲載誌	早稲田文学〔第二次〕
巻　号	第8号
刊行年月日	1906年8月1日
掲載頁	118
書誌所蔵情報	CiNii Booksで検索
出典	早稲田文学(第2次)1(1906年1月1日)～157(1918年1月1日)
購入	日本の古本屋で買う


早稲田文學　(八一)

夏目漱石氏文學談

一記者

「詳細検索」で著者名を指定して検索するときについて補足します。

著者名を指定して検索するシチュエーションとして考えられるのは、その人が書いたこと、話したことをできるだけたくさん拾いたい、という時かと思います。
インタビュー記事や座談会の記事などもその対象に含まれるかと思いますが、ざっさくプラスではそうした記事の場合、人物名が論題名のところに記述されていることが多くあります。
たとえば、スライドには、夏目漱石へのインタビュー記事を表示していますが、「夏目漱石」という名前は論題名のところにあって、著者はインタビューした「一記者」と書かれています。
この記事は、詳細検索で著者名を「夏目漱石」として検索しても、出てきません。
詳細検索の結果が少ない時には、「簡易検索」のタブに切り替えて検索してみてください。
簡易検索なら、論題名と著者名を同時に検索できるので、漏れのない検索が可能であると言えます。
詳細検索で思ったほどヒット件数が少なかったときは、簡易検索に切り替えてみるのも一つの手です。覚えておいてください。

②国立国会図書館デジタルコレクション

【主な収録内容】　https://dl.ndl.go.jp/ja/intro#idx4-1（2026年10月時点）

◆ 国立国会図書館所蔵の図書
- 明治期以降、2000年までに整理された図書約284万点

◆ 国立国会図書館所蔵の雑誌
- 明治期以降に刊行された雑誌約142万点（刊行後5年以上経過したもの）
  1号=1冊、多くの資料に目次データが付与されている

◆ 国立国会図書館所蔵の古典籍資料（貴重書等）
- 江戸期以前の和古書、清代以前の漢籍など、貴重書・準貴重書約12万点

◆ 博士論文
- 国立国会図書館では大正12（1923）年9月以降の国内博士論文を所蔵し、そのうち、デジタル化されたものが約34万点
- 著者から許諾を得た博士論文については主論文をインターネットで公開

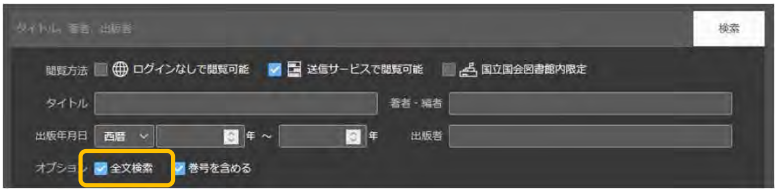
2つ目のデータベースとして、国立国会図書館デジタルコレクションを紹介します。
これは、国会図書館が所蔵する資料をデジタル化して、画像閲覧、目次の検索、さらに一部の資料については本文の全文検索ができる大変便利なデータベースです。
無料で誰でも使えるデータベースですので、明治～昭和期の日本の図書・雑誌を調べる方にとっては必須のツールです。

デジタルコレクションでは、明治期以降2000年までに整理された図書が約284万点収録されています。
雑誌については、明治期以降に刊行され、刊行後5年以上が経過したものが約142万点収録されています。
このほか、貴重書や博士論文、電子書籍なども収録されています。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ 図書・雑誌など**約398万冊の全文検索が可能** https://dl.ndl.go.jp/fulltext-search

詳細検索画面



現在の検索対象

■ 雑誌：**OCR（光学文字認識）処理によるデジタル化資料（図書、雑誌等の一部）の全文テキスト**
- 明治期以降に刊行された雑誌（2000年までに出版されたもの）
- 図書：明治期以降、1968年までに出版された図書
  震災・災害関係資料の一部 （1969年以降に受け入れたものを含む）

■ **電子ファイルに埋め込まれている全文テキスト（電子書籍・電子雑誌、電子形態で収集した博士論文）**
- もともと電子資料として発行された資料なので、明治～昭和期の雑誌記事検索には関係せず

21

国立国会図書館デジタルコレクションは、2026年10月時点で、全文検索ができる図書・雑誌が約398万点になり、さらに毎年データが追加されています。
他のデータベースでは見つからなかった図書や雑誌記事を見つけることができますし、特に、固有名詞や珍しい言い回しでの検索は、デジタルコレクションの得意分野です。
その一方、一般的な単語で検索すると、ヒット件数が多くなりすぎてしまいます。その場合は詳細検索で、項目や年代を絞ってみてください。

このように非常に便利なツールなのですが、デジタルコレクションに収録されている資料がすべてではない、という点をご注意いただければと思います。
国立国会図書館は「納本制度」に基づき国内出版物を収集していますが、本格的な収集は昭和26年頃から始まりました。
そのため、昭和25年以前の資料は収集されていない可能性があります。日本最大のコレクションですが、明治～昭和初期の雑誌について網羅的とは言えない点にご注意ください。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ デジタル画像には、3段階の公開レベルがある

1. **ログインなしで閲覧可能**：いつでもどこでも閲覧・ダウンロード可能
2. **送信サービスで閲覧可能**：**個人向けデジタル化資料送信サービス**に利用者登録を行い、ログインして閲覧・著作権の範囲内で印刷・ダウンロード可能
   - ➢ 国立国会図書館の利用者登録（個人）について
     https://www.ndl.go.jp/jp/registration/index.html
3. **国立国会図書館内限定**：国立国会図書館に直接行く もしくは ILLで複写を取り寄せ

	ログインなしで閲覧可能	送信サービスで閲覧可能	国立国会図書館内限定
図書	約37万冊	約121万冊	約126万冊
雑誌	約2万冊	約83万冊	約57万冊

※令和8年9月末現在

22

デジタルコレクションに収録されている資料の画像は、著作権の保護状態によって、公開レベルが3段階に分かれています。
一つ目が「ログインなしで閲覧可能」なレベルです。これは著作権など権利状況に問題がないことが確認できたものです。いつでもどこでも閲覧・ダウンロードができます。

二つ目が「送信サービスで閲覧可能」なレベルです。これは個人向けデジタル化資料送信サービスと呼ばれ、個人アカウントでログインしてご自分のパソコンやスマホから見ることができます。登録は国会図書館Webサイトから可能です。詳しくはスライドのURLをごらんください。
スライドの下の表を見ていただくと、「ログインなしで閲覧可能」「送信サービスで閲覧可能」の資料をあわせると、デジタルコレクション全体の6割ほどが閲覧可能になります。無料ですので、ぜひ送信サービスへの登録をご検討ください。

三つ目のレベルが「国立国会図書館内限定」です。著作権の保護期間内の資料などです。国立国会図書館に直接行って見ることができます。また、行かなくても、必要な部分のコピーの取り寄せが可能です。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ アクセス方法

検索だけなら無料でどこからでもアクセス可能　https://dl.ndl.go.jp/



文献データベースとして使用するときは
3つのチェックボックス全てに
チェックを入れるのがおすすめ

23

こちらがデジタルコレクションのトップ画面です。
Googleなどで「NDLデジコレ」と検索してアクセスしてください。誰でもアクセス可能・検索可能です。

検索する前に、検索窓の上にある、赤、緑、青の3つの公開レベルのすべてにチェックが入っていることを確認してください。デフォルトで3つチェック入っています。

「送信サービスで閲覧可能」と「国立国会図書館限定」の資料であっても、目次情報の検索は無料でできます。検索の幅を広げるため、このまま検索するのをお勧めします。

今回は、「夏目漱石」というキーワードで検索してみます。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ 検索結果一覧

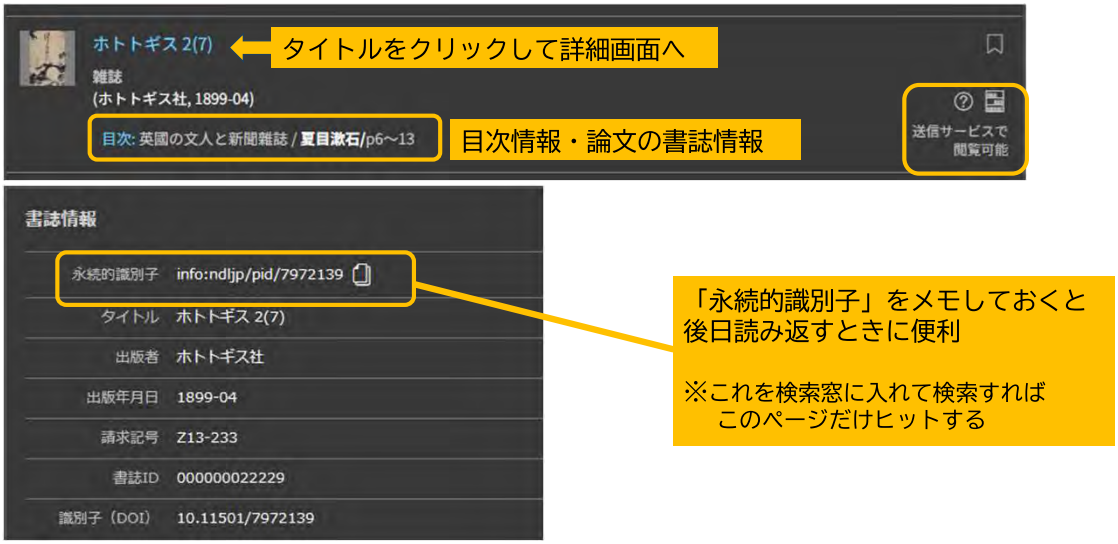


こちらが検索結果の一覧です。
入力したキーワードで、雑誌のタイトル、記事のタイトル、図書のタイトルや目次などの事項をまとめて検索した結果です。

右上のプルダウンから、一度に表示する件数や、検索結果の並べ方をお好みで変えることもできます。

3つの公開レベルは、画面の右側にあるアイコンと文字で分かるようになっています。
「送信サービスで閲覧可能」は本棚のアイコン、「国立国会図書館内限定」は図書館のアイコン、「ログインなしで閲覧可能」は地球儀のアイコンで表示されています。

②国立国会図書館デジタルコレクション



25

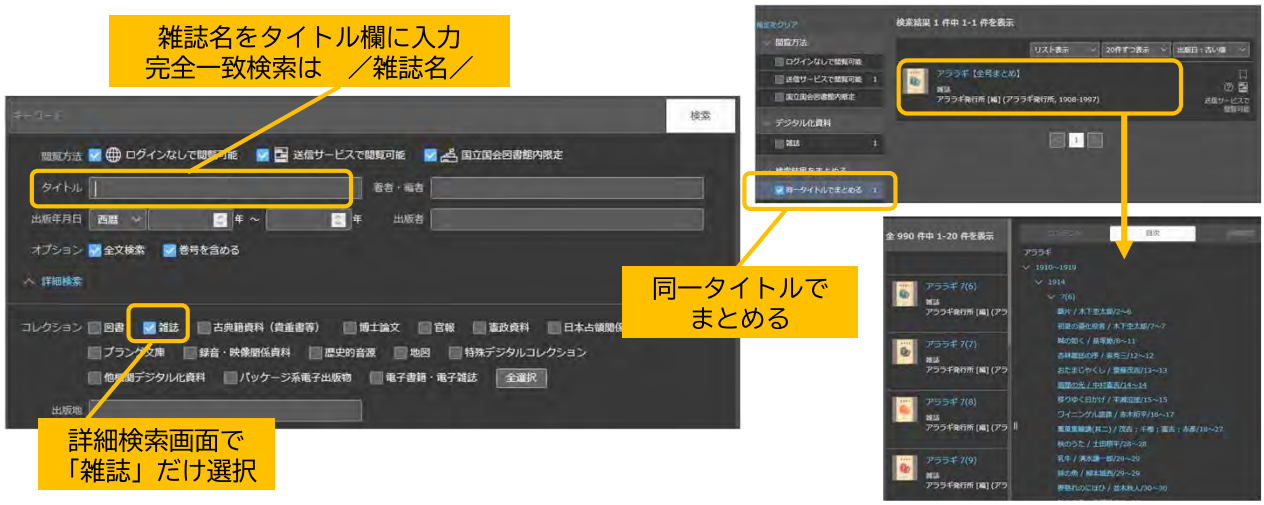
ためしに『ホトトギス』という雑誌の2巻7号を見てみましょう。こちらが詳細画面です。

これは「送信サービスで閲覧可能」の資料なので、本文の画像は見られませんが、個人でも利用者登録すればログインして画像が見られるようになります。
また、利用登録をしていない状態でも、右側の目次情報だけは見られるようになっています。お探しの記事かどうか、ここを見て判断してください。

画面の下の方には、この資料の情報がまとめられています。
一つ便利なものとして、永続的識別子というものがあります。これはデジタルコレクションにおけるIDのようなもので、一つの資料につき一つふられています。
これをメモしておくと、後日読み返したいときにこの識別子を検索窓に入れて検索するだけでよく、大変便利です。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ 特定の雑誌の目次を探す



デジタルコレクションは、特定の雑誌の目次データベースとしても活用できます。
トップページに戻って、詳細検索モードに切り替えます。

今回は『アララギ』という雑誌について調べてみましょう。雑誌だけを検索したいので、画面の下にあるコレクションのところで一旦「全解除」をクリックし、雑誌だけにチェックを入れます。
「タイトル」欄に雑誌名を入力し、検索をクリックしましょう。

検索結果が表示されましたね。画面の左側にある「同一タイトルでまとめる」をクリックすると、検索結果に「全号まとめ」が表示されます。
クリックすると、『アララギ』のデジタル化された全ての巻号が一覧できます。
画面の右側をクリックすると、目次情報が一覧できます。
このように、ある雑誌についての目次情報を通して見たいときに、「同一タイトルでまとめる」機能が役に立ちます。
ただし、デジタルコレクションの中にある巻号しかヒットしないので注意が必要です。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ 画像検索機能

- デジタルコレクションから切り取った画像や手持ちの画像、またはウェブ上にある画像に類似した図版（図、挿絵、写真等）を検索可能
- 検索対象は「ログインなしで閲覧可能」の資料



27

キーワードだけではなく、図版を手がかりに検索する機能もあります。

ウェブ上の画像やお手元の画像を使って、デジタルコレクション収録資料の中で似ている図版を検索することができます。
デジタルコレクションのトップページ「画像検索」から検索できます。

②国立国会図書館デジタルコレクション

◆ 検索方式
- 目次や**一部の資料の本文**も含めて、検索窓からキーワードで検索可能
  - ✓ 異体字（芸と藝 など）もまとめて検索可能
  - ✓ 数字・アルファベットの大文字/小文字/全角/半角も区別なし、平仮名と片仮名も区別なし

◆ 論理演算の入力方法（△は半角スペース）
- AND検索：検索窓に「キーワード△キーワード」と入力
- OR検索：検索窓に「キーワード△OR△キーワード」と入力

◆ 検索の注意点
- 書名、雑誌名、目次にはヨミデータが入っているが、**本文には入っていない**
- 本文は、漢字も含めた表記が完全一致しないと検索でヒットしない
- 目次データの作成ミスや本文データのOCR誤認識、現物の損傷による判読困難など、データの正確性が十分でない場合がある

28

デジタルコレクションの特徴をまとめました。

検索の注意点として、デジタルコレクションの本文データには、ヨミがはいっていないため、
本文の表記と検索キーワードが完全に一致しないと検索できない、ということがあります。
また資料現物が傷んでいて、不完全な本文データとなっている場合もあるため、
検索にはスライドにあるような点をお気を付けいただければと思います。
それでも日本で最大規模の非常に便利なデータベースなので、ぜひご活用ください。

「ざっさくプラス」「NDLデジタルコレクション」雑誌目次データの収録範囲

◆ 明治～昭和（戦前まで）の雑誌目次データ
- 「ざっさくプラス」には「国立国会図書館デジタルコレクション」の雑誌の目次データが収録
- 「ざっさくプラス」独自に、目次データをより詳細にして採録

◆ 昭和（戦後から）の雑誌目次データ
- 「ざっさくプラス」には「国立国会図書館デジタルコレクション」の雑誌の目次データは未収録
- 「ざっさくプラス」 では、CiNiiやNDL雑誌記事索引など他の情報源から採録

「ざっさくプラス」と「国立国会図書館デジタルコレクション」を併用して検索すると、漏れがないよ



29

ここまで紹介した2つのデータベースについて、雑誌記事情報の収録範囲のまとめです。

明治から昭和の戦前期までは、ざっさくプラスには、国立国会図書館デジタルコレクションの目次データが収録されています。
ですので、基本的にはざっさくプラスが国立国会図書館デジタルコレクションを含んでいる、というイメージになります。

一方で、戦後以降は、ざっさくプラスに、国立国会図書館デジタルコレクションの目次データは収録されていません。
ただし、ざっさくプラスは他の多くの情報源から目次データを採録しています。
結果として、2つのデータベースの両方に収録されている情報は多いです。

「ざっさくプラス」「NDLデジタルコレクション」雑誌目次データの収録範囲

◆ 「ざっさくプラス」のほうが目次データが詳細なケースがある

雑誌「映画と演芸」2巻8号



国立国会図書館デジタルコレクション



ざっさくプラス

戦前期までは、ざっさくプラスに、国立国会図書館デジタルコレクションの目次データも収録されていますが、一つ注意点があります。
デジタルコレクションは、残念ながら目次情報が荒いことがあります。

たとえば、このスライドの左側の画像はデジタルコレクションの目次情報です。
写真、三色版、二色版など詳細がよくわかりませんが、右側のざっさくプラスを見てみると。それぞれ記事のタイトルまで書かれています。
このように、ざっさくプラスではデジタルコレクションの目次データを取り込む際に、より詳しい情報を拾っています。
このように、2つのデータベースを両方使ってみると、得られる情報が多くなることがあります。

③Web-OYA bunko

◆ 有料のデータベース / 大阪大学では未契約

大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館、国立国会図書館関西館などに直接行けば利用可能

◆ 参考：主な収録内容

- 週刊誌・女性誌・月刊総合誌など、大宅壮一文庫所蔵雑誌の記事を採録したもの
- 1888年以降の雑誌記事索引データ約732万件

31

3つ目に紹介するデータベースが、Web-OYA bunkoです。

大宅壮一文庫という、明治時代以降の雑誌を集めた図書館が東京にあり、そこで所蔵している雑誌の記事を検索できるデータベースです。
週刊誌や女性誌など、ここまで紹介した2つのデータベースにはあまり収録されていないジャンルをカバーしているのが特徴です。
残念ながら、大阪大学では現在このデータベースを契約していませんが、公共図書館で契約している場合があり、大阪府立図書館、大阪市立図書館、国立国会図書館関西館に直接行けば利用できます。

③大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録

◆ 冊子の書誌索引 / 総合図書館に所蔵あり
- 本編（明治～1984年、1985年～1987年、1988～1995年）
- 追補（1888～1987年）
- 配架場所：総合図-書庫2階 書誌・索引 R027.5||OYA||（巻）

◆ 主な収録内容
- 週刊誌・女性誌・月刊総合誌など、大宅壮一文庫所蔵雑誌の記事を採録したもの
- 本編と追補編あわせて、明治～1995年までの索引データ約225万件

総合図書館には、データベースではなく、紙の資料で、『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』を所蔵しています。
明治期から1995年発行の雑誌記事をこの資料で探すことができます。

③大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録

◆ 人名編

- 国内外の著名人について、その人物に関する記事を索引したものであり、本人が執筆した記事も含むが、著者索引ではない

◆ 件名編

- 雑誌記事を事項別、事件別に分類して索引したもの
- 独自の大宅式分類法によって分類されている
- **件名編の利用手順（推奨）**
  1）「件名総索引」で、探したい項目の件名が何かを確認する
  2）1）で狙いを定めた件名を用いて、総目録本体の件名編を検索する

索引を有効に活用するのがポイント

33

『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録』には「人名編」と「件名編」の2種類があります。
総目録を利用するときは、索引を有効に活用するのがポイントです。

たとえば「件名編」を見る場合には、まず「件名総索引」で、自分が探したい内容がどのような件名で採られているのかを確認します。
そのうえで、今調べた件名で探す、という2つのステップを踏んでください。
件名からたどっても人名からたどっても、同じ記事にたどり着けるようになっています。

3つのツールの簡単な比較

ざっさくプラス	明治～昭和戦前の記事情報の多さ 独自データ多数で最大の収録記事数
国立国会図書館 デジタルコレクション	探索から画像確認までシームレス 本文検索機能と図書の目次情報は他2つにはない特長
大宅壮一文庫 雑誌記事索引総目録	大衆誌やサブカルチャー誌に強い 関連記事をまとめて探しやすい索引

どれか1つにしか収録されていない情報も多いので、
広く情報を探したいときは、3つとも検索するのが
おすすめです



34

ここまで紹介してきた3つのツールの簡単なまとめです。

ざっさくプラスは、独自データが多く、収録記事の量は最大です。
国立国会図書館デジタルコレクションは、検索から画像の確認までシームレスに行えます。また、本文や図書の目次情報も検索できるという強みがあります。
大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録は、大衆誌やサブカルチャー誌に強いことと、関連する記事をまとめて探しやすい点が特徴です。

探している情報が、この中のどれか1つにしか載っていないこともあります。
できるだけ広く調べたいときは、3つとも検索してみましょう。

④20世紀メディア情報データベース 占領期の雑誌・新聞1945-1949

◆ 有料のデータベース / 大阪大学では未契約
- 個人年間契約（年会費5千円）提供元のインテリジェンス研究所Webサイトから申請可能

◆ 収録内容
- アメリカ合衆国メリーランド大学所蔵**プランゲ文庫**資料のうち、下記を収録
  - ✓ 全雑誌全号の記事情報
  - ✓ 日本新聞協会（当時）加盟紙の全記事情報　雑誌+新聞で合計約323万件
- 他のデータベースでは手薄な占領期の雑誌・新聞記事の検索に有効

◆ プランゲ文庫とは
- 占領期の1945年の秋から1949年11月までにGHQが検閲によって日本全国で収集した資料のコレクション
- 国立国会図書館が所蔵している。一部デジタルコレクションで閲覧可能。複写物入手可能 https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/occupation/Prange

35

占領期の文献を探したい方は、20世紀メディア情報データベースもかなり重要です。
これまで紹介した3つのデータベースでは、実はこの占領期の年代の文献情報が十分に網羅されていないため、この時期の文献を調べたい方にとっては、特に重要なデータベースといえます。

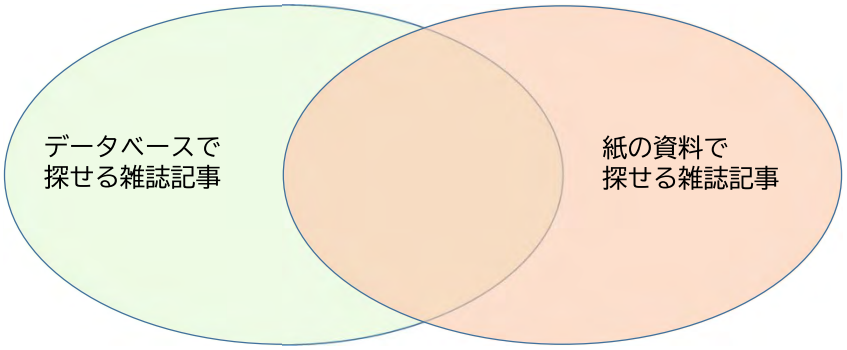
このデータベースでは、プランゲ文庫に収録されている雑誌・新聞記事を検索できます。
プランゲ文庫とは、占領期にあたる1945年の秋から1949年11月までに、GHQが検閲によって日本全国で収集した資料を保管したものです。その中から、このスライドにあるような内容のものが検索できます。

ざっさくプラスでは、検索結果に出てきて記事のタイトル、著者の情報までは見られますが、阪大で契約していないため、検索結果から詳細の情報は見られません。
国立国会図書館では、マイクロフィルムで所蔵しており、一部デジタルコレクションで閲覧できます。詳しくはスライドにも掲載している国立国会図書館のURLをご覧ください。
参考までに、京都府立図書館では2025年度時点では契約されているようですので、お近くに住んでいる方で必要がありましたら直接行っていただければ、利用できます。また、個人で契約も可能です。

紙の書誌索引や参考図書等の活用

データベースでは得られない情報もある

➡ きちんと探索する場合は、紙の資料も併せて活用する



ここからは少し、書誌索引や参考図書といった紙の資料について紹介していきます。

今さら紙の資料を使うの？と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、データベースからだけでは得られない情報もまだまだありますので、
網羅的に探索したい場合、紙の資料も併せて活用することが重要です。

紙の資料について：総目次

◆ **総目次**

- 雑誌の目次情報を集めて収録した資料
- 複数誌を集めて収録したものと、1誌のみを対象にしたものがある

a）複数誌を集めて収録したもの

- 発行時期で限定、分野で限定、作成機関の所蔵資料に限定、等さまざまなケースがある
- 索引の有無で利便性が大きく異なる
  存在を知らないとOPAC（蔵書検索）で見つけるのが難しい

b）1誌のみを対象にしたもの

- 図書等として改めて発行される場合と、該当誌内で節目に収録される場合がある
- 前者：蔵書検索しやすい雑誌名と、目録 or 目次 or 総覧 or 索引 or 細目 などで検索
- 後者：存在を把握しづらいので**総目次の総覧**などを活用する

紙の調査ツールには、いくつかジャンルがあります。

まず「総目次」と呼ばれるジャンルのもの。これは名前のとおり、雑誌の目次情報を集めて収録したものです。
複数の雑誌を対象にしたものと、1誌のみを対象にしたものがあります。

複数誌を集めたものは、発行時期で集めたものや、分野で集めたものなどさまざまです。
蔵書検索では見つけ出すことが難しいため、いくつかメジャーなものをあらかじめ知っておくと便利です。

1誌のみを対象にした総目次は、図書として改めて発行される場合と、その雑誌内で1年単位や100号単位などの節目に収録される場合があります。
後者は存在を探し出すのが難しいため、「総目次の総覧」というジャンルの資料を活用して、まずは総目次の掲載場所を探すとよいでしょう。

紙の資料について：文献目録

◆ **ある人物に関する文献目録**

- 多くの人物を収録したものから、特定の人物のみに焦点をあてたものまでさまざま
  後者を参照できれば豊富な情報を得られる
- 図書として刊行されるケースや、雑誌論文として発表されるケースなどがある
- 採録対象はその人物の著作限定 or その人物を対象にした研究文献も含める

□ 1つの文献目録に頼りすぎない

- 文献目録刊行後に発表された文献がある可能性
- その文献目録には含まれていない文献がある可能性
  を考慮する

続いて、ある人物に関する文献目録というジャンルをご紹介します。
ある人物を対象に研究を進めていく場合、まず文献目録が存在するかどうか調べると、その後の調査が捗ります。

ただ、一つの文献目録に頼りすぎるのは要注意です。
文献目録が刊行された後に発表された文献があるかもしれません。また、文献目録が見逃している文献があるかもしれません。文献目録をベースにしつつ、データベースなど他のツールも使って、追加調査を行うと完璧です。

代表的な紙の資料については、別途掲載している参考資料をご覧ください。
ご自身の研究に利用できそうな資料については、ぜひ一度現物を手に取って確認してみてください。

紙の資料の活用ポイント

- Point1：自分の探索内容や制約条件によって使い分ける
  - ある特定の雑誌に的を絞った研究（＝雑誌が制約条件） → **総目次**
  - ある人物の著作をできるだけ集めたい（＝人物が制約条件） → **人物文献目録**
  - ある事件・事象を扱った記事を集めたい → **件名索引のある資料**が便利
- Point2：索引を有効に活用する
  - 索引があるかどうか必ず確認し、あれば正確に活用する
- Point3：収録内容や採録基準を把握する
  - 凡例などで「何を探せていて、何を探せていないか」を明確に意識して活用する

代表的な紙の資料については、
『参考資料：明治～昭和期の雑誌記事を探すために有効な冊子資料について』
https://www.library.osaka-u.ac.jp/wp-content/uploads/meiji_ex.pdf
もごらんください



39

紙の資料を活用するときのポイントをご紹介します。

1つ目は、自分の探索内容や制約条件によって使い分けることです。
たとえば、ある特定の雑誌に注目した研究をしているときは、その雑誌の総目次を使えば良いですね。
このように、なにを調べたいかが明確になると、利用するべき資料がおのずと決まってきます。

2つ目は、索引を有効に活用することです。
索引があるかどうかを確認し、あるときは利用方法を確認した上で正しく活用すると、調査効率がかなり向上します。

3つ目は、収録内容や採録基準を把握して使うことです。
これはデータベース活用のポイントと同じで、自分が何を探せているのかを理解した上で使う、ということです。
紙の調査ツールには、多くの場合「凡例」というページが最初にあります。そこに収録内容や採録基準が書かれていることが多いです。
凡例をまず読むことで、この資料で何を探せるのかがよく分かります。

明治から昭和期の日本の雑誌記事検索においては、データベースに収録の無い情報もまだ多く、紙の資料も有効に活用していきましょう。